

は「国家観への疑問」を、工学者の西沢潤一(1926-)は「教育改革のバランスの悪さ」をそれぞれ問題点として指摘したが、それにしてもそうそうたる面々による批判である。

矢内原への批判は、主に戦中期に集中する。戦中から戦後にかけての価値観の大きな転換期における対応には苦闘されたことと思われる。

#### 5. それぞれの父子関係から見た、次世代の育成は？

父と子、ふたつの気質の相克という観点から考えてみたい。内村の息子・祐之は、父・鑑三の厳格な家庭内規律に苦しんだ節がある。学生野球における祐之の活躍は素晴らしかった。一高時代に早稲田、慶応を撃破し、左腕投手として名を馳せたが、鑑三の定めた“no Sunday game”ルールに従って日曜日には野球ができず、日曜日の教会で医学書を読む姿には、周囲から同情が寄せられたという。宗教家としてではなく、野球人・祐之の父として捉えられる自らの姿に苦笑した鑑三であったが、祐之に直接「伝道者たれ」と言ったことはただの一度もなかったという。

南原父子の間にはこれらの確執はなかったようであるが、矢内原の息子・伊作(1918-1989)は、公開したその日記の中で、父を酷評する発言をしていたという。

#### 6. 1945年7月16日は何の日？

この論点に対する、鴨下先生からの直接の言及はなかった。かわりに、国土が深刻な災害を受けたときに、その社会に対する影響をどう考えるかという学問に、災害社会学という分野があり、それに内村鑑三がかかわっていたことについて語られた。さらに最近、マイケル・サンデル教授(ハーバード大学)が、政治哲学的観点から、非常時の礼節について論じたことについても紹介された。

#### むしろ、志のある生き方

1時間の講演はたちまちのうちに過ぎ去り、参加者には深い感動が残された。

学燈という言葉がある。そして、それが世代を超えて連綿と伝えられていくさまは、燈々無尽という美しい言葉であらわされる。内村鑑三・南原繁・矢内原忠雄と受け継がれてきた理念と思想の燈は、鴨下名誉教授の中で今も燦然たる輝きを保ちつづけている。

今回の講演で語られた言葉のひとつひとつが、聴衆の心の中を照らすともしびとなり、その記憶の中で、長く輝き続けることであろう。

「志のある生き方をして欲しい。

そして、それを次の世代に伝えて行って欲しい」

## 北海道医師会ホームページ フォトギャラリー 作品募集

### ◇情報広報部◇

北海道医師会では、ホームページにフォトギャラリーを開設しております。今後、会員の皆様の作品掲載を充実していきたいと考えております。どうぞふるってご応募ください。

### 募 集 要 項

#### 【応募規定】

- 作品のテーマは自由です。
- 本人が撮影した作品に限ります。
  - フィルム：作品は原則としてポジカラー(スライド)としますが、プリントはキャビネサイズ以上であれば可です。
  - デジタル：JPEG、TIFF等の画像データ。  
ただし、撮影時のオリジナル画像と大きく異なるような修正・合成等の画像処理を施したものは不可とします。
  - コメント：作品タイトルと200字程度にまとめた説明等を添付してください。
- 応募者それぞれに専用の掲載ページを作成します。同時に掲載できる作品は20点までとします。作品の入れ替えは、随時可能です。

- 肖像権やプライバシーの侵害には十分ご注意ください。当会では責任を負いかねます。
- 応募作品が著しく多数の場合、広報委員会において、フォトギャラリーへの掲示作品を選定いたします。
- 作品の応募は随時受け付けております。

#### 【応募・問い合わせ先】

〒060-8627

札幌市中央区大通西6丁目  
北海道医師会事業第一課

TEL 011-231-7661

FAX 011-252-3233

E-mail photo@m.dou.jp